

作物名：大豆

病害虫名：フタスジヒメハムシ（学名：*Medythia nigrobilineata*）



成虫



食痕



被害粒(上：黒斑粒 下：腐敗粒)

1 被害状況

(1) 被害の特徴

- 成虫が茎、葉、莢を食害する。莢の食害が被害をもたらす、茎や葉の食害は大きな被害につながることは少ない。
- 莢の表面をなめ取ったように食害し、そこから糸状菌の侵入が起こると、黒斑粒(子実の表面に黒点)や腐敗粒(白いカビに覆われる)が発生する。
- 幼虫は、地下に潜り根粒を食害するため、多数発生したときは生育不良になる。

(2) 虫の特徴

- 成虫：体長3～4.5mm、背面は黄色で黒色の縦条が2本ある。

2 生態

- 年3世代発生。成虫が畑や畦畔の落ち葉や雑草の下で越冬し、根またはこれに接する土壤に産卵する。成虫発生時期は次のとおりで、莢を食害するのは、第2世代成虫である。
- 越冬世代成虫：ダイズの発芽期
- 第1世代成虫：開花期頃(7月下旬～8月上旬)
- 第2世代成虫：子実肥大期(8月下旬～9月中旬)

※普及に移す技術第84号「フタスジヒメハムシの発生生態とダイズの総合的有害生物管理(IPM)のための防除法」参照

<https://www.pref.miyagi.jp/documents/20202/69922.pdf>

3 防除方法

(1) 化学的防除

- 越冬世代成虫を対象とした初期防除(種子塗沫処理や播種溝処理)や、子実肥大期(第2世代の発生初期から盛期に至る8月下旬)の薬剤散布。

4 出典

(1) 参考文献

- 原色病害虫診断防除編1 (農文協)

(2) 写真

- 宮城県病害虫防除所撮影

(令和5年9月改訂)